

おもしろき世の面白き人たち

山口 毅
コンサルティングファーム社長



「今月のひと」 柿本謙二さん

現在、企業の緊急時のサポーターとして全国を駆け回っている柿本さんですが、この仕事を選んだきっかけは、子どものころの原体験が大きく影響しています。

かきもと・けんじ 株式会社アイビーピー代表取締役、公認会計士、税理士。監査法人在籍時代より、株式公開支援業務のほか、事業育成、事業再生コンサルティングに実績。

に近い経験を積んでいきます。柿本さんは肌で感じる「実感」を大切にしています。例えば、監査法人に在勤中、自身が経営を経験しなければ相手の気持ちが理解できないし、税務申告も自身で体験しないと、その大変さもわからないだろうと自分で会社を作って経験するといった徹底ぶりです。現場で仕事をするためには法律を知らないと話にならないと考えて、大学院の法学研究科で法律の勉強をしつつ、平成九年四月、当初の目標であった「本気でやっていると本格的に開業します。」

四つの柱で本気経営者を応援

柿本さんは、公認会計士という職業を人に説明するときに、自分で実感を持った話ができないことに気づいて、自身の職業を「会社を作ったり、たんだりする人」という説明をします。

企業は事業を創造し、ときには事業をたたまなければならぬ局面があります。本気でやっていると経営者のサポーターですから、ディレクター^{ディレクター}現場監督にもなりますし、プロデューサーにもなり

ただの会計士にはなりたくない

本気でやっていると経営者のサポーターになるためには、まずは武器を持つことです。「その武器の一つが資格だろう」と、とりあえずわけもわからず公認会計士を目指して上京します。幸い一回で試験に合格し、善は急げと大学在学中から監査法人で働き始めました。「サポーター」になるべく、監査法人では中心業務である監査の仕事は少なくして、オーナーの相続対策、倒産処理、上場準備、事業売却のお手伝いなど、なるべく現場

れて、実家を手伝うために夢をあきらめて商売を手伝う、そんなことが珍しくありませんでした。家の商売が傾くと、家も傾くといい現実がそこにはありました。このような子どものころの原体験によって「何で本気で商売しているのに、応援してくれる人がいなかったのか」との思いを強く持つようになり「それなら自分が、本気でやっていると経営者のサポーターになろう。ウルトラマンのようになろう」と思ったのです。

「ウルトラマン」の放映が始まった昭和四二年、高度経済成長の真つただ中に会計士の柿本謙二さんは生まれます。当時から父親は大阪の八尾で自動車修理業を営んでいます。「両親が二、三日食わずに、僕だけ食べている食卓」というこの状況に、幼いながらも貧乏しているのだなと、実感した瞬間がありました。「一生懸命働いているのに食えない現実」が、強烈に脳裏に焼きついています。そして、友人には自営業者の子どもが多くいました。将来の夢を語り合った友人たちが、父親が倒

ます。ときには自身がタレントになつて仕事をします。そして「本気の経営者」を応援する四つの柱を立てています。

第一の柱はまさに「緊急時対応」です。法的・私的を含め本気で、企業再建に取り組みお手伝いを行います。

「自分に聞かれたら社長に代わつて何でも答える」、それが柿本さんのモットーです。三〇社ほどの会社の役員として、銀行交渉、取引先の交渉、従業員との話し合いなども含め、社長の代わりに実務をこなします。まさにインハウス型のサービスです。

専門家の多くは、アドバイスはします。が、実行するのは経営者や担当者になります。しかし、経営者は日常業務をこなすことには慣れていますが、当然のことながら異常事態への対応は初めてのことが多いわけです。つまり、自分で良し悪しの判断もつかず、しかも人間、緊急時は普通の精神状態でいられないわけです。そんなとき、顧客のことを考えて、数字と法律を理解して、実務を一緒にこなしてくれるプロフェッショナルの助けが必要なのです。



事務所内のカウンターコーナーで「頑張る経営者に、ひとときの憩いを感じて欲しい」と柿本さん

もちろん地方からも多くの依頼がきます。地方企業は地元で専門家に依頼をしたがらないのです。話をすると、あつという間に地域にその情報が広がってしまい、風評被害のおそれがあるからです。残念な話なのですが、結果として話が広まってしまったため、地元では頼みにくいというのが現状です。

また依頼企業の多くは、お金もありません。ないから頼んでくるのです。ないお金は一緒になってひねり出します。苦しむ会社がそこにいるのにお金がないからと放

つておくことはできないのです。

二四時間、三六五日、本気で経営者を応援したいの思いから、柿本さんは全国を駆け回っています。

第二の柱は、企業の総務経理の業務請負です。請求業務から未収管理、数百社の支払い業務までをお客様の代わりになつて行います。お客様が必要とされる経営リソースを、できる限り補ってあげたいと考えているからです。

第三の柱である情報セキュリティコンサルティングや、第四の柱である会計や人事労務に関する業務についても、なるべく実感の持てる仕事を心がけ、本気で企業の応援をしていこうと取り組んでいます。

経営者をずっと応援しつづけた

柿本さんのオフィスに入つて最初に目に入るのが、カウンターコーナーです。「オフィスはオペレーターセンターにしたいところありません。人を招く場所であり、何かを持って帰ってもらうところ、強いて言えばサロンだと考えています」経営者が非日常を感じる場所にしたそうです。

さまざまな問題を抱えた経営者の方がオフィスを訪れ、癒しの空間の中で問題が解決され、晴れ晴れとした顔でお帰りいただく姿を見ることが柿本さんの喜びです。「私たちと継続してお付き合いいただいてくれる企業さんは、つぶれませんが」と柿本さんはおっしゃいます。

《関連URL》

株式会社アイビーピー
<http://www.ipp.jp/>

本連載は今回で終了です。二年半にわたるご愛読ありがとうございました。またどこかで、皆さんとの縁ができることを期待しています。

やまぐち・たけし ●コンサルティングファーム代表取締役。国家資格者を中心とした「メンターネットワーク」(会員300人)を主催して企業向けサービスを提供するとともに、会員の経営支援も行う。
<http://www.cyber-mentor.org/>